

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察注意報について

令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 4 号を発表したので送付します。

## 令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 4 号

- 1 作物名 マンゴー
- 2 害虫名 マンゴーハフクレタマバエ
- 3 発生地域 八重山地域
- 4 注意報発令の根拠  
石垣市における 7 月の調査の結果、本種の寄生新梢率は 66.4% ( 平年 : 17.1% )、発生ほ場率 100% ( 平年 : 42.4% ) で、平年に比べ多発生となった ( 図 1、図 2 )。
- 5 発生生態および被害
  - (1) 成虫は体長 1.3~1.7mm で体色は明褐色、脚は細長い。触覚は数珠玉を繋いだような形で、体長と同程度かそれ以上の長さがある ( 図 3 )。幼虫は体長約 2mm の白~橙黄色のうじ虫である ( 図 4 )。
  - (2) 雌成虫はマンゴーの新葉及び新梢部の軸の柔らかい組織内に産卵する。ふ化した幼虫は葉肉内をせん孔し、生長しながら直径 1.5~3mm の円形の虫こぶを形成する。虫こぶはわずかに膨らみ、水浸状~黒褐色の円形の斑点となる ( 図 5 )。成熟した幼虫は虫こぶから脱出し、飛び跳ねて葉から落下し、地中で蛹化する。
  - (3) 幼虫脱出後の虫こぶは葉から脱落するため被害痕は孔となり、高密度に加害された葉は落葉が早まる ( 図 6 )。また被害痕から炭疽病菌に感染することが多く、落葉がいつそう促進される。
  - (4) 卵~成虫まで約 2 週間 ( 卵期間 2 日、幼虫期間 5 日、蛹期間 6 日程度 )、成虫寿命は 1~3 日程度とされる。県内では低温期を除きほぼ周年発生が確認されるが、特に収穫後の 7~10 月に発生が多い。
- 6 防除対策及び注意すべき事項
  - (1) 繁殖スピードが速く、環境条件が整うと急激に増殖することから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。
  - (2) 高湿度条件下で幼虫や蛹の生存率が高まるため、施設内の湿度管理に留意する。

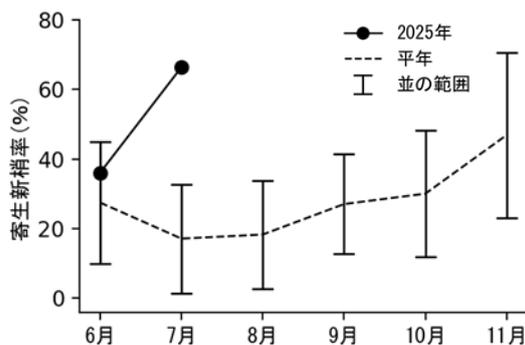


図 1 マンゴーハフクレタマバエ寄生新梢率の推移

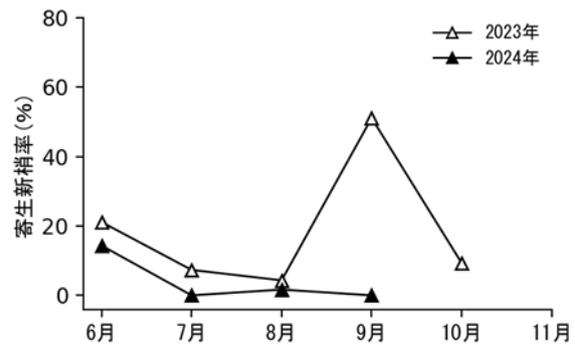


図 2 マンゴーハフクレタマバエ過去 2 年の寄生新梢率推移



図3 マンゴーハフクレタマバエ (成虫)



図4 マンゴーハフクレタマバエ (幼虫)

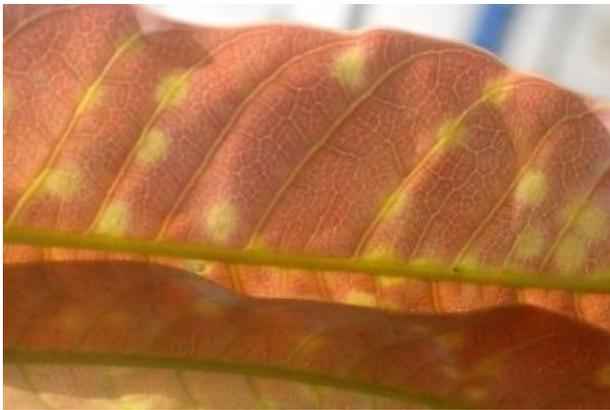


図5 新葉に形成された虫こぶ



図6 高密度に加害された新葉

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

